

愛犬のデンタルケアのホントとウソ

後悔しない選択を



© Lavo Dog

はじめに

Lavo Dog

ドッグケアリスト遠藤圭香（けいこ）です。

この度はこの電子レポートをご覧いただきありがとうございます。
私はトリマーとトレーナー、両者を経験し、

【犬たちの「こころ」と「からだ」の健康を守れるのはトリマーでもトレーナーでもなく飼い主さましかいない】

というこたえに辿りつき、
現在は犬の飼い主さま向けに愛犬の健康を維持するための日々のお手入れ法を習得していただけるケアレッスンをしております。

犬たちの「こころ」と「からだ」の健康を維持増進するためのケアについて、間違った常識が当たり前になってしまっている現状や犬たちの健康を害し兼ねないサービスが横行しているなかで、サービスを選択する買い手である飼い主さまに
“間違った常識を鵜呑みにしない知識” が必要と考え今回このレポートを作成しました。

このレポートをお読みいただき、つつい面倒で後回しにしまったり、つい楽な商品に頼ってしまいがちな愛犬のデンタルケアについての「ホント」と「ウソ」をご理解いただき、飼い主さまの誤った選択により、将来苦しむ犬たちが少しでも減ってくれたら幸いです。

愛犬の口内環境を健康に守ってあげられるのはあなたしかいません。

大好きなあなたに、“楽しいコミュニケーションタイム”として健康を維持するための様々なケアをしてもらえる幸せな犬たちが日本中に増えることがLavoDogの夢です。

目次

- Story1：大事なものは「予防ケア」
- Story2：やってはいけない歯科ケアとは？
- Story3：対処療法のゆく末
- Story4：歯みがきのはじめかた
- Story5：愛犬に合ったアイテム選び

Story1：大事なものは「予防ケア」

あなたはご自身の歯の定期検診に行かれてますか？

“かれこれもう1年以上行っていないかなあ…”

という方、要注意です。

人間では30代以上の80%が、60代以上では90%が
歯周病に罹患していると言われています。

かなり多いですね？

この数字は、軽度の「レベル1」で

“歯垢がついて歯肉に炎症が起きている状態”

も含まれています。

「歯垢なんてみんな付いてるんじゃないの？」

と思ったあなた、要注意です。笑

たしかに、歯ブラシでの歯垢除去率は60%と言われているので
みんな歯垢が磨ききれずに付いているんです。

ですので、簡単に言うと、
磨ききれなかった歯垢が歯間や歯肉に付着し
その中で菌が歯垢をエサとし増殖し歯周炎を起こし
歯周ポケットを深くしていってしまうのです。

歯周ポケットが侵されると、一度深くなってしまった歯周ポケットは
元には戻りにくいので、日々のセルフケアだけでは
ポケットはどんどん深くなり最終的には歯が抜け落ちてしまいます。

歯を失う抜歯の原因、第1位は虫歯ではなくこの歯周病です。

虫歯は痛みが出やすいので皆さんすぐに歯医者さんに行くかもしれませんが
この歯周病は沈黙の病気とも言われており、静かに静かに進行するので

痛みが出て気づいた時には結構悪化していることが多いようです。

歯垢は歯ブラシで磨くだけでは除去しきれないということ、
そして深くなってしまった歯周ポケットは歯ブラシだけでは
もちろんお掃除出来ないということ。

なので日々の歯ブラシケアにプラスして
定期的に歯医者さんでプロの手により歯周ポケットまで
綺麗にしてもらうクリーニングが必須なのです。

歯周ポケットが深く深く細菌に侵されてしまう前に
定期的なお手入れが欠かせないのです。

と、ここまで人のお話でしたが、

あなたの愛犬も、おなじなのです。

成犬（3歳以上）の80%が、
小型犬においては1歳未満の90%が
歯周病に罹患していると言われています。

さらに犬では、
人間よりも歯周病の進行を促進する
歯垢が歯石に変わる日数が早いとも言われており
より小まめなお手入れが必要です。

ただ、個体差はあるので歯みがきをしなくっても
ヘーキな子も確かに中にはいます。

その場合、「うちの子は歯みがきしていないけど平気よ」
となる飼い主様もいらっしゃるでしょう。

しかし成犬の80%以上は歯周病という事実もお忘れなく。

7・8才くらいまでは口臭も気にならず
“うすーく黄色くなっているだけ”だった子でも
人間と同じように年を重ねると唾液の分泌も減り菌が繁殖しやすい口内になり一気に
歯周病は悪化し口臭がきつくなります。

歯周病は一度罹患すると完治しない病気と言われています。

ですから、

「歯周病になる前に”予防”」

することが大事なのです。

いかがでしょうか？

今すぐご自身の歯のクリーニングと
愛犬の歯のケアをしてあげたくありませんでしたか。

実は私もそうでした。笑

愛犬を通じて、犬たちはもちろん、
飼い主様自身も健康になっていただけたら嬉しいなと思っております。

次項はやってはいけない愛犬の歯科ケアについてお話しますね。

Story2：やってはいけない歯科ケアとは？

さて、前章のお話で

「予防ケア」の重要性については
ご理解いただけたかなと思います。

今回は「やってはいけない歯科ケア」です。

それは、ズバリ

【無麻酔での歯石取り】です。

近年、「麻酔をしないので愛犬に負担がない！」
などと告知しトリミングサロンなどでも
オプションとして歯石取りをメニューにしていたり、
ドッグカフェでのイベントとして歯石取りを開催したりして
お客様集めをしているところが多いように思います。

犬の歯石取りを簡単にマスター出来てお仕事ができますよ
と謳って、資格を発行している団体もあります。

恐ろしいです。

あなたも一度くらいやってしまったこと、ありますか？

実はとても危険です。
そしてあまり意味が無いかもしれません…。

歯石は、歯周炎（歯周病）の直接的な原因では無いのです。

したがって、歯石を取ったからといって
歯周病を治療したことにはなりません。

もちろんこれ以上の悪化を防ぐための「予防」をしたことにもなりません。

そうです、なんの効果も無いのです。

なんの効果も無いは言い過ぎかもしれません…

- ・ 歯石が取れる
- ・ 白い歯が見えて見た目が綺麗になる
- ・ 歯周病が治ったかのように見える

などの効果があるかもしれません。笑

しかし、歯石を取る取らないはあまり重要ではありません。

無麻酔での歯石取りは効果が無いばかりか鋭利な器具で施術をするので
歯面を傷付けさらに歯垢が付きやすい歯を作ってしまうかもしれないのです。

トリマーや歯石取りマイスターのような方が結構な料金で歯石を取り、
それをサービスにしているところが見受けられますが、
獣医師免許を持たないトリマーやそのような方々が
口腔内へ施術をすることは法律的にもとてもグレーです。

日本小動物歯科研究学会はこれに警鐘を鳴らしています。

しかも、それを無麻酔で行うということは
いかに無責任で危険な行為であるか…。

その施術によって
嫌な思い、痛い思い、苦しい思いをした犬たちは、
その後飼い主さんやトリマーに口を触られることを嫌がり
歯磨きなどの予防ケアや顔カットなどのトリミングがスムーズに出来なくなってしまうこ
とさえあります。

ひどい例だと、
犬が動いてしまって器具で目を傷つけてしまったり、
キツく抑えてすぎて股関節を脱臼させてしまったり、
顎の骨を骨折させてしまったり、なんてお話もたくさん耳にします。

心臓病を抱えた子では、
嫌がって心臓がバクバクしすぎて肺水腫になって死亡してしまったり、
なんて事故も起きているそうです。

本当に犬たちのことを考えているサロンであれば、
そのような、大きなリスクがあって歯周病予防効果がない（誤解を恐れずこう言います）無
意味な歯石取りでお金をもらい犬たちに負担を強いることはしないはずです。

もっと根本的な方法、
「歯石が付かないように歯みがきをしましょう」
という予防ケアを飼い主様にすすめるはずです。

また愛犬のことを想ったら、
そのような、怖い、痛い、苦しい思いをさせたくないですよね？

歯みがきケアをせずに、1年分の溜まった汚れを歯石取りで…というのは、
1年分の負担が愛犬に及ぶということです。
さらにそれは、歯周病の治療効果は期待できない歯石取り。

であれば麻酔をして、きちんと歯周ポケットの中までクリーニングし、
洗浄・消毒・薬の塗布、の処置ができる獣医さんでやっていただいたほうが断然良いです。

ですがそもそも、
「歯石が付いたら取る」
という考えは、ただの対処療法でしかありません。

見た目だけのごまかしではなく、
きちんと“根本治療”“予防ケア”をしないと愛犬の健康は守れません。

Story 3：対処療法のゆく末

対処療法のその後…。

前回は「無麻酔での歯石取り」の危険性についてお話ししましたが、では、「麻酔下ならば良いのか？」という声が聞こえてきそうですね。

全身麻酔を施してからの歯石除去であれば
犬たちが暴れることもないので
怪我をさせたり傷つけたりする心配は低いでしょう。。
さらに歯周ポケットのなかまでしっかりクリーニングしてもらえるでしょう。

ですが、全身麻酔というのは愛犬の体に負担が掛かります。

たまに愛犬家の飼い主さまで
「愛犬の歯のケアはどうしてますか？」
と伺うと、

「年に一度、歯石取りをしておりますっ！」

と、堂々とおっしゃる方がいます。

麻酔下なのか、無麻酔なのかわかりませんが、
どちらにしても悲しい未来が待ち受けてます。

どんな未来か・・・？

若いうちはなんとか体力があり、
麻酔や無麻酔での歯石取りに耐えられたとしても
シニアになってからはどうでしょう…。

前章でお伝えしましたが無麻酔での場合、
犬が暴れて怪我をしたり、
シニアになってからの骨折は治りも遅い。
また、嫌がって興奮した場合、小型犬のシニアは心臓病を患っている子も多いので
心臓に負担が掛かり苦しくなってしまうことも。

ではシニアになったら麻酔をして施術すればよい？

いえいえ、シニアになってからの麻酔は老犬のからだに負担ではありませんか？
弱った愛犬に毎年毎年麻酔をして歯石を取りますか？
獣医さんも高齢犬への麻酔はあまりやりたがらないところも少なくありません。

なので、
「もう歳だし、このままでいいでしょう」
「そこまでリスクを抱えてやりますか」

などと言われそのまま悪化していくのを見守るか、または、

「これ以上歯周病がひどくなる前にすべて歯を抜きましょう」
「犬は咀嚼をしないので歯がなくても大丈夫です！」

なんて言われ、抜歯されてしまうことも。

ここは獣医さんによって様々ですが、実際、
”歯周病の予防”
として歯を抜かれてしまっている子も少なくありません。

「歯石は溜まったら取る」

という予防でもない、治療でもない見た目だけの対処・処置を繰り返している場合、
ポケットの中ではどんどん歯周病菌が増殖し歯の根元や、顎の骨までも溶かしてしまい、
毛細血管を通じて歯周病菌が全身を巡り様々な全身疾患へと繋がってしまいます。

そこまで悪化して初めて
「歯みがきをしなきゃ！」と気づきますが、
歯周病が悪化して赤く腫れた歯肉や口元は、
触られると痛みがあるため口を触られることを嫌がります。

歯ブラシを当てるなんてとんでもない。

犬は痛くて歯みがきどころではありません。
飼い主さまが気付いて意気込んだ時には時すでに遅し…。

そんなの悲しくありませんか。

効果のない対処療法（治療にもなっていません）を止め、
いますぐ私たちが毎日行っている歯みがきという「予防ケア」を
愛犬にもはじめましょう。

Story4：歯みがきのはじめかた

いかがでしょう。

愛犬の歯みがき。

毎日やるのは面倒、とついついサボりがちになってしまいますが、
少しは愛犬に歯みがきをしてあげようかなというお気持ちになっていただけました
でしょうか。笑

そこまできたら次は、なにから始めればよいか？ですね。

こういったお話をすると、

「さっそくやります！！」

と意気込んで鼻息荒く愛犬に歯ブラシを始める方がいます。笑

大変！

と思って焦るお気持ちは嬉しいですが、ここで気付いて頂けただけ幸いです。

ですからまずは焦らず、愛犬に合わせて嫌がらないよう少しずつ褒めながら、
お口をおとなしく触らせてくれるように日々楽しくトレーニングしましょう。

トレーニング？

そう、歯みがきをはじめのにもトレーニングが必要なのです。

トリミングサロンや無麻酔での歯石取りでは、
ある程度犬たちを逃げられないように
プロの技で保定し、鳴こうが喚こうが離しません。

しかし自宅で飼い主さんがやる場合、
ちょっと嫌がられると愛犬に遠慮してすぐにパッと手を離してしまいます。

そうになると犬たちは、

「ちょっと嫌がれば離してくれるじゃん！」
「ちょっとクネツとすればスルツと逃げれるぜえい！」
と学習します。

その結果…

「うちのこは嫌がってやらせてくれなくて…」
「うちのこは歯ブラシを見ると逃げちゃってー」

となってしまいます。

そこで、私が推奨するグルーミングトレーニングでは、
トレーニングの技術を用いて、愛犬が嫌がらずにケアを受け入れてくれるよう少しずつのスモールステップでトレーニングしていきます。

毎日飼い主さまが愛犬の様子を観察し、
愛犬に合わせてステップアップしていくので愛犬に負担が無いのと、あなたとの良いコミュニケーションになります。

日々少しずつ行うことなので
これは飼い主さまにしか出来ないことなのです。

トリミングサロンで、
月に一度通ってもらってトレーニングをしたとして
定着するのにどれ程の時間が掛かることか…。

だからサロンでは、強制的でもお客様からの希望があれば犬の口を開けて、
嫌がっても暴れても歯みがきをします。
私もトリマー時代、そうでした。

けれど、あまり嫌がって噛み付いたりする場合は
歯みがきなんてしてもらえてない可能性だってあります。

そりゃそうですね。

噛み付かれてトリマーとしての大事な手が
使えなくなったらお仕事出来なくなってしまうんですから。

そしてそういった場合、
サロン側はきちんとあなたに

「暴れて歯みがき出来ませんでした」

と告げているか。

もしかして出来なかった事実は伝えず
歯みがきをした体にしてしれっと料金を回収しているのか？

真実はそのサロンしかわかりません。笑

おうちで歯みがきが嫌いな子は、サロンに行っても嫌な気持ちは変わりません。
なので少しでも嫌じゃなくなるようにご自身で練習してみませんか？と強く思うの
です。

あ、、、ごめんなさい。
話が逸れましたね。

やり方・手順でしたね。

やり方はたくさんあります！

その子、その飼い主さまの関係性や
現状どこまでできるのかを確認しないと一概には言えませんが
大まかなステップは下記のイメージです。

例えば”オスワリ”ができる子ならば
正面にオスワリをした状態で、
左手の手の平を愛犬が顎を乗せやすい位置に持っていき、
“歯みがき”や“セット”、または”お口乗せて”などなんでも良いのですが
飼い主様が使いたい言葉と一緒に
愛犬が手のひらにあごを乗せるように練習していきます。

その後、そのままお口を触ってもおとなしくしていたら褒める、
を繰り返し徐々に

- ・口唇をめくってみる
- ・指で犬歯に触ってみる

- ・ 歯ブラシを見せる
- ・ 歯ブラシで犬歯にタッチしてみる
- ・ 犬歯を磨いてみる
- ・ 歯ブラシを奥に入れてみる

など、たくさんのステップを経て歯磨きに慣らしていきます。

もちろん先ほども言ったように
この順番の限りでは無く、飼い主様と愛犬の関係値や
愛犬の性格・飼い主様の性格、などによってやり方・順番は大いに変動します。

スパルタな飼い主さんで犬も逃げないようなら
ステップをちょっと飛ばしてやっても平気ですし
神経質な子で飼い主さんも優しくって
“なるべく負担を掛けないでやりたい”
という場合は細かいステップで進めていきます。

おもしろいことに
大雑把で愛犬に遠慮がなく
堂々としている飼い主さんに
飼われている子はわりと雑にされても大丈夫なのですが、

神経質で心配性な飼い主さんに
飼われている子は「今日から歯磨きするわよ！」
というちょっといつもと違う不穏な空気を飼い主さんが
出しているだけで怯んでしまったり逃げてしまったりします。笑

飼い主さま側の気持ち・感情というのはとても敏感に感じる子達なので
日頃から心配性で愛犬を赤ちゃんのように扱ってしまっている飼い主さんは
堂々と毅然とした態度で安心感を与えるような振る舞いを心がけることも必要かも
しれません。

またこのステップアップにはトレーニングの技術も重要になります。

褒めるタイミング、褒め方、褒める方法。

愛犬が嬉しいのはおやつなのかボールなのか、お散歩なのか…
ご褒美は愛犬が喜ぶことでないと意味がありませんのでご注意ください。

またステップを飛び越えすぎると
嫌がったり逃げてしまったりするので
そしたらまた手前の手順に戻ってやり直しです。

もう、お分かり頂けたかと思いますが、
歯みがきの重要性に気づいて「愛犬に歯みがきをしよう！」
と思ったとしてもすぐには出来ないということです。

切羽詰まっていて徐々に慣らしている余地なんて無い場合は、
愛犬が暴れようが逃げようが、タオルやゴムを噛ませて
無理やり歯みがきをすることもあるようですが…

私は、そんなつらい想いをさせる前に予防ケアしましょう！

と思うのです。

Story5:愛犬に合ったアイテム選び

前回の手順で歯磨きしようと思ってもいきなり出来ることでは無いということをお伝えしました。

愛犬の負担が少ない＝じっくり少しずつ慣らしていく

という手順になり、
サロンなどで有無を言わずパパッとやるのは＝愛犬の負担が大きいということになります。

愛犬に負担なく、と思うのであれば
日々少しずつのステップで
愛犬とコミュニケーションをとりながらすすめてください。

おなじようにケア商品に関しても
楽しんで効果を得ようとする
何かしらの“負”が付いてくるということをまずご理解ください。

さて、アイテム選びですが、
歯みがきガム・ひづめ・デンタルシート・デンタルスプレー・お水に入れるタイプのケア商品・ご飯に混ぜるタイプのふりかけケア商品・犬用歯ブラシ・赤ちゃん用歯ブラシ・・・
実に様々な商品が店頭に並んでいて何が良いのか迷いますよね。
何がいいのでしょうか…？

- ・ガムを与えるだけで歯周病予防ができる！
- ・水に混ぜるだけで口臭がなくなる！
- ・スプレーするだけで歯石が取れる！
- ・ご飯に混ぜるだけで歯石が付きにくくなる！

店頭に並ぶ魅力的なキャッチコピーです。
とても手軽で楽チンそうですね！

でも考えてみてください。
私たち人間社会でこんな会話、ありますか？

【あなたは歯みがき何派？】

Aさん「あ、私は忙しいから便利なスプレー派よ」

Bさん「私はガム派！甘い味がして美味しいし！つつい食べ過ぎちゃうけど1日3個までなのよね。じゃないとお腹緩くなっちゃって…うふふ。」

Cさん「私は面倒くさがりだから水に混ぜて飲むだけでいいやつにしてるわ！」

Dさん「私は年に1回の歯石取りだけで普段は何もしないわ～」

．．．．．。

なんて会話があったらどうですか？

恐ろしくありませんか？ちょっと笑えますが。笑

なのに犬の世界ではこんな会話が当たり前に交わされている現状…。

なんとか飼い主さまの意識を変えていけたらなと思うばかりです。

〇〇するだけ！と謳っている商品の数々…

本当にそれだけで効果があるとしたら

どんな化学成分が入っているのか逆に心配になりませんか？

そしてそれらは、吐き出すことが出来ない愛犬の体に全て吸収されていってしまいます。

心配です。

さらに、もしも本当にそれだけで歯周病が防げる抜群の効果があるならば

なぜ人は忙しい毎日の中でこんなにも欠かさず毎日歯みがきをしているのでしょうか？

そんなに良い効果が期待できるものがあるならば

まず人用で商品化されていて前述の会話が成り立つ世の中になっているはずだと思うんです。笑

それが成り立っていないということは、つまり…

ガムだけ、シートだけ、ジェルだけ…etcでは歯周病予防は不十分という事です。

結論、私たちが日々歯みがきをしているように犬たちにもベストで最強の予防ケアアイテムは「歯ブラシ」です。

一言で歯ブラシといっても、犬用がいいのか、赤ちゃん用がいいのか、クルクル回るタイプのものが良いのか、などなど疑問は尽きないでしょうが、これは愛犬の口内の状況によってアイテム選びは変わってきます。

ただ一つ言えるのは、フィラメント（毛）が硬いのは初心者にはオススメしません。

口の中に異物が入るだけでも嫌なのに、それが固くてチクチク痛いものだったら嫌ですね。

その子がもし、すでに歯肉炎で歯肉に炎症がある子ならなおさら痛いので嫌がります。

ですからはじめに使う歯ブラシは重要です。

そして犬用で販売されていてちょっと理解できないのが
360度回るクルクルタイプの歯ブラシ…。

あれ、磨きやすそうって思ってしまうんですかね？

あなたは購入したことがありますか？

”クルクル回ってラクに磨けますよー”って

購入する飼い主さま向けに楽チンさをアピールしてますが…

私にはまったく犬のことは考えられてない企業目線の商品に思えてしまいます…。

だって考えてみてください。

頬側に触れるほうまでチクチクしているんですよ？

そしてあのタイプの歯ブラシの毛は短いんですよね。

毛足が長ければ歯や歯肉に当たった時にある程度柔軟にしますが

毛足が短いとしならないのでチクチクします。

そしてそれが歯肉と頬の両方にダブルで当たる…。笑

あんなだったらどうですか？

歯みがきをする度に、デリケートな頬側までかたい毛が当たって痛い。

嫌ですよね？

ぜひ一度ご自身で試してみてください。笑

歯周病が重症化している子だと、歯茎だけでなく頬の粘膜まで赤く炎症を起こしている場合があります。

そんな子にこんな歯ブラシを使ったら痛くて痛くて全身に電気が走るほどかもしれません。

愛犬の口内をよく観察して使用する歯ブラシを選んでいただくのが重要ですが

まずは頬に当たるほうはツルツルしていて、
フィラメントが極端に柔らかい歯ブラシを使用して
慣れさせていくのをオススメします。

前章でお伝えした歯みがき導入のステップで、
大人しくマズルコントロールができるようになったらいよいよ歯ブラシに慣れさせていきま
すが、歯みがきができるようになるまでに様々な商品を併用するのは良いと思います。

歯ブラシを導入する前にシートを使う方もいらっしゃるでしょう。

どれが正解、ということはありません。

愛犬の歯周病レベルと歯みがきケアの許容レベルを見て
最終的に歯ブラシでのケアができるようにステップアップしていければ良いということだ
す。

焦らず、気負わず、ゆったりゆったりやってみてください。

きっとその時間は “面倒な歯みがきの時間” ではなく、お留守番を頑張った愛犬との会話
の時間だったり、一日中寝ていた愛犬と向き合う時間だったりします。

愛犬たちにとっては、大好きなおやつがもらえる美味しい時間だったり、大好きなあなたと
コミュニケーションが取れるハッピーな時間だったりして、それだけでも愛犬たちの歯みが
きに対するモチベーションは上がるはずです。

いかがでしたでしょうか？

愛犬のデンタルケアを通じて、
あなたと愛犬の絆が深まり、犬たちの健康が続くことを願います…。

fin.

Profileプロフィール



幼少のころ、近所の大型犬に噛まれ背中を二針縫う大怪我をするもなぜか犬嫌いにはならず、その後近所のおじさんが連れてきたペットショップの売れ残りだというシーズー犬の可愛さに一目惚れし「ララ」と名づけ家族に迎え入れる。

ララと一緒に成長するにつれ、いつも私のそばに寄り添ってくれるララのお手入れを自分でしてあげたいと思うようになり高校卒業後にトリミングスクールに通い、トリマーの道へ。

ペットトリミングはもちろん、ドッグショーへ出場する犬たちのケアをするショートリマーも経験しました。

しかしトリマーとしての日々は楽しいばかりでは無く、ケアを嫌がる犬たちへの強制的な施術や、犬種特性を追求するあまり犬たちに過度な負担を強いているドッグショーの世界に疑問を持ちトリマーの道を離れます。

その後大手通信会社に就職し、営業やショップスタッフの教育などを担当。10年近く勤め、仕事に追われる日々をすごすなかで、“自分がこれからの人生で本当にやりたい仕事は何か？”と考えるようになりました。

——やっぱり犬にたずさわる仕事がしたい。

30歳を目前に一念発起し、「犬」を仕事にしようと決意。
その時、強くあった想いは“殺処分される犬たちを救いたい”

けれど、ボランティアでその子達を引き取ることは出来ないしどうやって殺処分される子達を救えばいいか、私に何が出来るか、考えました。

そして、トレーナーの勉強をしようと決意します。

殺処分される犬たちの多くは「こんなに大きくなると思わなかった」「吠えてうるさい」「凶暴で」・・・など人間の犬に対する知識不足・しつけ不足が原因でした。正しい犬の飼いかた・しつけかたを伝えれば犬を捨てる人たちを減らせる、と思ったのです。

会社員として働きながらドッグトレーナーの養成校へ入学。そこで犬の行動学やトレーニング法を学び私は愕然とします。

私はトリマーとして犬のことを知っているつもりになっていましたが、犬の気持ちを少しもわかっていなかったことに気づかされたのです。

“動かないで”

“大人しくしてて”

“イヤイヤしないで”

トリミングサロンの多くは、あなたの愛犬がケアを嫌がっていても、爪切りが嫌いでも、プロの技で保定をして施術をおこないます。強制的であっても、口輪をはめて爪を切ったり、ブラッシングしたり……。

足腰が弱ったシニア犬も、長時間立たされたまま施術されます。

限られた時間内にきっちり仕上げる為には仕方がないのかもしれませんが。

けれど、犬たちは我慢を強いられ、強いストレスを感じています。

トリミングサロンでは、苦手なケアを苦手じゃなくなるようにトレーニングはしてもらえません。

犬たちが一生受けなければならないケアが一生ストレスになったままなのです。

また、歳を重ねた老犬さんはサロンに受け入れてもらえないという現実もあり、シニアになった愛犬のトリミングができずに困っている飼い主さまもたくさん見えました。

そこで、トレーニングの技術を応用し犬たちをケア嫌いにならないレッスンを広め、愛犬が歳を重ねてサロンに断られても困らない、愛犬のケアが出来る飼い主様を増やそうと思うようになりLavoDogを開業しました。

しつけ教室では教えてもらえない愛犬のお手入れ法と、トリミングサロンでは教えてもらえない愛犬のしつけかた。両方をカバーし、飼い主さま自身の手で愛犬に負担なく愛犬の健康を守ってあげられるお手伝いをしています。

犬たちの心身の健康を守ってあげられるのは、トリマーでもトレーナーでもありません。

一番近くにいる飼い主さまでだけです。

あなたの愛犬が、歳を重ねて寝たきりになってもおむつになっても、生涯大好きなあなたにストレスなくお手入れしてもらえる。

そんな幸せな犬たちが日本中に増えることがLavoDogの夢です。

■ Instagram

https://www.instagram.com/lavo_dog/

■ 公式HP

<https://lavodog.net>

■ Facebook

<https://www.facebook.com/lavodog.school/>